

◎2年連続で人文学部生が日本ユニセフ協会ビデオコンテストに入賞

茨城大学人文学部3年生新井リカさんらによる1分間のビデオ作品が8月2日に日本ユニセフ協会の第2回ワンミニッツ・ビデオ・コンテストに入賞した。昨年に続く茨大学生の入賞の快挙。指導に当たった同学部の村上信夫教授は、「初めて制作した作品でたった15回の授業の結果なので、立派なもの」と学生の奮闘ぶりを高く評価している。

受賞したビデオのタイトルは、「すべての子供たちに5歳の誕生日を」。作品には「世界全体では毎年1000万人を超える5歳未満の乳幼児が死亡しており、その半数の500万人がアフリカに集中している。すべての子どもたちに5歳の誕生日を迎えさせたい」との新井さんらの願いが込められている。

映像では、ハッピーバースデーの曲と共に、世界中の子どもの人形がバースディーケーキを分けて行くがアフリカの子どもは倒れてしまうといういわゆるクレイアニメの手法を用いている。

コンテストには、全国から350にのぼる応募があり、新井さんらの作品が上位30傑に選ばれた。昨年も、村上教授が開講している人文学部の「映像制作論」で山田香織さんらが制作した「ビーバーズ」が今回と同じコンテストで受賞している。



◎「大賞を逃したのは悔しい」「頑張ってた良かった」ユネスコ賞入賞の3人がコメント

日本ユネスコ協会の One minute video コンテストで入賞した人文学部3年生の3人からコメントが寄せられました。

新井リカ：たった1分ですが、映像を作り上げるまでに多くの苦労がありました。大賞を逃したのはやはり少し悔しいですが、今回の入賞はとても嬉しかったです。貴重な経験が出来ました。

滝田美香子：自分達の作った作品が入賞して、驚くと共に本当に嬉しいです。制作中は大変でしたが、頑張ってた良かった。滅多にないことを経験できたと思います。

渡辺菜月：自分が携わった作品が賞を頂いたのは嬉しいです、表彰式では全国の学生のような作品を見たり、作った学生と交流したりと楽しい時間を過ごせました。